



## トピックス

今回は花粉症の薬をご紹介します。  
まずは、当院で処方可能な内服薬です。



### 内服薬（第二世代抗ヒスタミン薬）

- |            |          |           |
|------------|----------|-----------|
| ・アレジオン     | 1日1回     | ※車の運転には注意 |
| ・フェキソフェナジン | 1日2回     | ※車の運転可    |
| ・ピラノア      | 1日1回 空腹時 | ※車の運転可    |

その他点鼻薬や点眼薬もお取り扱いがありますので、ご希望の方は受診時にご相談ください。

### 市販薬について

#### ・第一世代抗ヒスタミン薬（マレイン酸クロルフェニラミンやジフェンヒドラミン）

効果は高いですが眠気などの副作用が出やすいです。また、第一世代抗ヒスタミン薬が主成分の薬には、鼻づまりに効果のある血管収縮薬（プソイドエフェドリンなど）や眠気を抑えるカフェインなどが含まれている場合が多いです。

#### ・第二世代抗ヒスタミン薬（アレジオンやアレグラなど）

医療用医薬品と同成分の薬が多いです。

※ 市販薬には色々な成分が含まれている薬もありますので、疾患のある方は医師や薬剤師に相談してから購入しましょう。



## 自己紹介

医療法人桂水会 岡病院

医師 山田 健太郎

### 自己紹介

皆様はじめまして、2024年7月から岡病院に就職しました山田 健太郎と申します。私は山形県山形市で生まれ、本庄市に転居し、本庄市立本庄南中学校、埼玉県立熊谷高等学校を経て、名古屋大学医学部医学科を卒業しました。トヨタ記念病院で初期研修医、消化器内科医として勤務し、愛知県の複数の市中病院で研鑽を積み、名古屋大学大学院を卒業しております。

専門は消化器内科で、消化器内科は「食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓」と内科の中でも扱う疾患領域が最も広いのが特徴的です。

今回は、その中から“肝臓”についてお話しさせていただきたいと思います。

### 肝臓の役割と慢性肝臓病について

肝臓は右上腹部にある人体最大の臓器であり、約1kg から1.5kg 程あるとされています。肝臓は栄養素を合成・分解したり、消化吸収を助ける胆汁を生成したり、余分な栄養分を蓄えたり、有害物質の解毒をしたりとたくさんの役割を持っています。

肝機能が障害を受ける病気の多くは、慢性肝臓病（CLD：Chronic Liver Disease）によるものです。慢性肝臓病は、肝臓が長期にわたり炎症とその修復機転で起こる線維化により持続的な障害が生じている状態で、進行すると肝硬変や肝臓がんになるリスクが高まるため早めの対策が重要です。慢性肝臓病の主な原因として、肝炎ウイルス、脂肪肝、アルコール、免疫異常などが挙げられます。

### 慢性肝臓病の主な原因

- ▶ ウイルス性肝炎（B型慢性肝炎、C型慢性肝炎）  
→ B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスの持続感染が原因。
- ▶ 脂肪肝  
→ 肥満、暴飲暴食、運動不足、糖尿病、脂質異常症などによる脂肪の蓄積が原因。
- ▶ アルコール性肝疾患  
→ 長期間の過剰な飲酒により、肝臓がダメージを受けることが原因。
- ▶ 自己免疫性肝疾患（自己免疫性肝炎 / 原発性胆汁性胆管炎）  
→ 免疫の異常によって、免疫細胞が肝臓を攻撃してしまうのが原因。

近年、肝臓病でも頻度が高かったB型肝炎、C型肝炎といったウイルス性肝疾患は治療薬の進歩もあり、死亡者が減少傾向にある一方で、生活習慣病を基盤とする脂肪肝やアルコール性肝疾患が増加し、それらによる肝硬変や肝臓がんが増えています。

日本国内ではウイルス性肝疾患の患者さんは約200万人、脂肪肝の患者さんは2,000万人以上いると考えられています。初期の肝臓病は自覚症状がほとんどないため、肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれており、肝硬変や肝臓がんに進行して食欲不振、倦怠感、黄疸、浮腫（むくみ）などの症状が出てから初めて肝臓病に気づかれることも少なくありません。



## 日本肝臓学会が発表した「奈良宣言2023」

そこで、2023年に奈良市で開催された日本肝臓学会総会で、日本肝臓学会が学会として初めての宣言「奈良宣言2023」を発表しました。一般的な健康診断で行われる血液検査において、肝機能の指標であるALT（GPT）値が30U/Lを超えている場合、まずはかかりつけ医を受診することを推奨するといったものです（図-1）。かかりつけ医による初期診療の後、必要に応じて消化器内科などの専門医と連携し、詳細な検査や適切な治療を行うことで、肝疾患の進行を防ぐことが期待されています（図-2）。この宣言の主な目的は、肝疾患の早期発見と早期治療を促進することです。

肝臓の採血項目と聞くとAST（GOT）、 $\gamma$ -GTPなどを思い浮かべる方もおられるかと思いますが、なぜ、ALTなのでしょう？

ASTは心臓や筋肉、赤血球などにも存在し、 $\gamma$ -GTPは胆道系、膵臓、腎臓の疾患でも上昇し、いずれも必ずしも肝機能障害を示すとは限りません。ALTは肝臓の細胞で作られる酵素で、肝臓に障害が起きて肝細胞が壊れると血液中に放出され数値が上がります。ALTは、ほぼ肝臓にしか存在しないため肝臓の異常を知るのに適しており、一般診療や健診で汎用されているALTがシンプルに選ばれました。

これまで厚生労働省が定める特定健診や人間ドックでは、ALTが30U/Lを超えていた場合は「要注意」として生活習慣の改善を勧め、50U/Lを超えた場合に初めて「医療機関の受診」を勧めていました。しかし、ALTが30U/Lを超えていた時点で、すでに肝臓に何か異変が起こっている可能性があることがわかってきました。そこで、奈良宣言では、ALTが30U/Lを超えた時点ですでに肝機能が低下している可能性があるとして、かかりつけ医の受診を提言したのです。



図-1

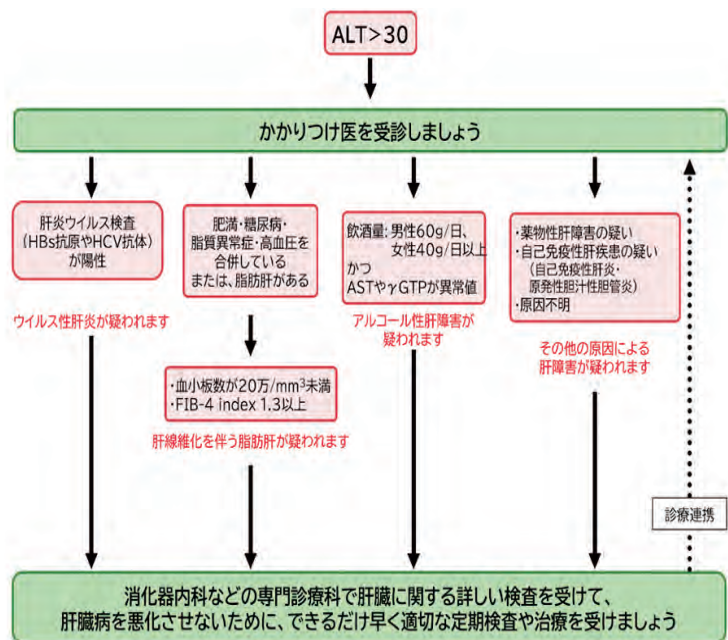


図-2

## 最後に

ALTが30U/Lを超えてくると、肝臓に炎症があり肝炎を発症している可能性が考えられます。肝炎を5年、10年とずっと放置してしまうと肝硬変、肝臓がんへ進行させてしまう恐れがあるので、早期の段階で原因を突き止め、炎症を抑えておくことがとても重要になります。慢性肝臓病を進行させないために、ALTが30U/Lを超えた場合には、かかりつけ医もしくは消化器内科医である小生にご相談ください。

肝疾患に限らず、消化器内科全般、さらに総合内科専門医として幅広い内科疾患に対応いたします。どうぞお気軽にご相談ください。

微力ながら地域医療に貢献したいと存じますので何卒よろしくお願い申し上げます。

## 理 念

地域医療に貢献する。

## 基本方針

- 1 より高度な医療と看護の提供を目指す。
- 2 患者様の立場に立った医療を実践する。

私たち岡病院職員一同は上記を実践するために以下のとおり、努力致します。

- 1 職員一同は日々研鑽し、医療の質の向上とサービス・業務の改善に努めます。
- 2 内科の二次救急病院として、地域住民の健康と福祉に寄与致します。
- 3 透析施設を有する病院として、安全で快適な治療の提供に努めます。

患者様の権利と責務について

## 権 利

- 1 患者様は病状・治療方針について十分な説明を受け、診療情報を得る権利をもちます。
- 2 患者様は診療情報を理解する権利をもちます。
- 3 患者様は治療方針と医療機関を選ぶ権利をもちます。
- 4 患者様はプライバシーの配慮と秘密を守られる権利をもちます。
- 5 患者様は希望にて、他の専門医に意見を聞く権利をもちます。

## 責 務

- 1 患者様は当院に病状・既往歴（現況も含む）・保険情報・住所等、診療に必要な情報を正しく伝える責務をもちます。
- 2 患者様は当院のルールを守り、治療に協力する責務をもちます。

## 個人情報保護

当院は、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。  
個人情報の取り扱いについてお気づきの点は、窓口までお気軽にお申し出ください。

## 医療相談について

療養その他でのお悩みごとやお困りのこと、ご不明のこと等がございましたら医療相談室、薬剤相談室、食事相談室にてご相談をお受けいたします。

- 1 階受付にて申し込み、又は担当の医師、看護師にお申し出ください。

(公財)日本医療機能評価機構認定



医療法人  
桂水会

岡 病 院

OKA HOSPITAL

〒367-0031 埼玉県本庄市北堀810番地  
TEL 0495-24-8821(代) FAX 0495-21-7640(代)  
URL <http://www.oka-hospital.jp/>

発行：岡病院  
編集：広報委員会  
発行日：令和7年4月1日

